

○計画期間:令和2年7月～令和8年3月(5年9月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和3年度終了時点(令和4年3月31日時点)の中心市街地の概況

令和2年7月からスタートした第3期基本計画は、基本理念を『飯田美しき町』魅力的な丘のまちの形成」とし、「美しい丘のまちのデザインづくり」「丘のまちの居場所・交流空間づくり」「丘のまちの快適な暮らし創造」「丘のまちの新たな価値創造」の4つの目標を掲げ、これらの目標達成のために事業を展開している。

今年度は新型コロナウイルス感染症（以下：コロナ）の影響により、各種事業や取り組みを予定通り進めることが難しく、設定した目標指標の基準値を下回り未達成の項目も多くある。しかしながら、現状の中で事業を展開できる方法を検討し取り組みを進めてきた。

りんご並木活性化推進事業として実施している「ぼおの日曜日」や「りんご並木天国」、「飯田丘のまちフェスティバル」など、中心市街地のシンボルでもあるりんご並木をフィールドとして活用し事業を展開している。既存ストックの地域資源を活用する事業の他に、地産・地消促進事業として「飯田丘のまちバル」を中心市街地内の飲食店と連携し飲み歩きイベントとして実施している。いずれも、コロナの感染拡大を防止するため、入場ゲートを設け参加者の連絡先確認や検温等を実施したほか、単日開催で実施してきた事業を月間として開催するなど、開催可能な方法を検討し実施している。

大きなイベントとしては、7年に1度の催事「お練りまつり」が令和4年3月25日から27日まで開催され、市内外から多くの観客が入り、会場となった中心市街地には3日間で約20万人が訪れ賑わいを見せた。

多くの項目が基準値を下回る中で、飯田市立動物園、中央図書館、美術博物館は大きな影響を受けていない。特に飯田市立動物園は、12万人を越える来園者があることから中心市街地のにぎわいに寄与している。今後の課題として各施設や事業と連携し、入園者を中心市街地へ誘導する仕掛けが必要である。

中心市街地に従来からある商店街では、空き家・空き店舗が増加している。そのため対応する事業として「地区空き家バンク連携事業」や「まちなか起業推進事業」等に取り組んでおり、今年度は6件の空き家・空き店舗解消につなげることができた。引き続き関係機関で情報共有を図り事業を充実させていく必要がある。

中心市街地の玄関口であるJR飯田駅周辺に於いては、令和4年5月に「丘の上結いスクエア」がオープンする。施設には「公民館機能」「賑わい交流機能」「商業施設」が整備されることから、交流人口の増加が期待される。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	平成30年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)	令和7年度 (6年目)
人口	8,660	8,365	8,217				
人口増減数		-295	-148				
自然増減数		-220	-106				
社会増減数		-69	-40				
転入者数		480	262				
地価	67,900	64,300	62,400				

2. 令和3年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

- ・リニア中央新幹線の長野県駅が郊外に設置される当地域では、リニア駅周辺は広域交通拠点としての限定的な機能を整備することとしており、中心市街地は引き続き当地域の中心拠点であり続けることが確認されている。
- ・中心市街地活性化基本計画は、リニア中央新幹線と三遠南信自動車道の全通がもたらす大交流時代を迎えるにあたって、中心市街地の魅力を高め、ひいては飯田市及び南信州圏域全体のポテンシャルを高めるためにも重要な計画といえる。
- ・第3期計画のフォローアップ1年目にあたる令和3年度の取り組みは、今後目標達成を見据えるうえで重要な年であったが、数値目標の「歩行者・自転車通行量」「都市福利施設利用者数」「文化・交流施設利用者数」では基準値を下回る項目も多くある。しかし、新型コロナウイルス感染症（以下：コロナ）の影響によるもののため、やむを得ないものと感じている。
- ・今後は、取り組み方法をウィズコロナとして捉え、飯田市立動物園、中央図書館、美術博物館等の施設と併せて、りんご並木をさらに活用していくことで、大きなフィールドとしての回遊性を高める取り組みを推進していく。
- ・特に、まちづくりのシンボルであるりんご並木では、歩行者専用道路に向けた実証実験として定期的に事業を開催しているが、更に日常の賑わいづくりへの新たな取り組みを展開していきたい。
- ・リニア中央新幹線と共に、信州大学の学部誘致の実現を見据え、デジタル産業をはじめとする、新しい産業の基盤としてのオフィス街、住みやすい住宅の整備、文化活動を推進するための施設整備、都市機能の充実した若者が活躍できる街づくりが期待される。
- ・中心市街地活性化協会としても、これから迎える新しい時代のために、令和3年度に立ち上げた市街地整備研究会を中心に、更に現状の整理と課題の調査を行い、再開発事業を含めた今後の研究を行っていく。
- ・飯田市の総合計画「いいだ未来デザイン2028」実現のために、小さな世界都市の顔ともいえる中心市街地のあり方について、その機能・役割分担、都市デザインなどについて積極的に検討を進めていく。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値 (平成30年)	目標値 (令和7年)	最新値 (令和3年)	基準値からの改善 状況	前回の 見通し	今回の 見通し
美しい丘のまちのデザインづくり	歩行者・自転車通行量(休日)	9,475人/日 (平成30年)	10,400人/日 (令和7年)	6,388人/日	C	-	1
丘のまちの居場所・交流空間づくり	都市福祉施設利用者数(年間)	209,214人/年 (平成30年)	214,800人/年 (令和7年)	141,008人/年	C	-	2
丘のまちの快適な暮らし創造	新規出店数	3店舗/年 (平成20年～平成30年度の平均)	5店舗/年 (令和2年7月～8年3月の平均)	6店舗/年	A	-	①
丘のまちの新たな価値創造	文化・交流施設利用者数(年間)	284,094人/年 (平成30年)	299,600人/年 (令和7年)	263,684人/年	C	-	1

※人口増減数については居住実態調査による職権消除を含む。

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量」は、目標値を約39%下回っている。これは、通行量調査実施の約半月前まで、県内全域に医療非常事態宣言が発出されていたこと、全国的には主要都市部で緊急事態宣言が発令されていたことから、移動の制限や人との接触機会をできる限り減らす動きによる影響を受けたことと併せて、飲食店等の利用者減少の影響が表れたものと考えられる。そのため、今後改善が期待できることと併せて、令和4年5月に「丘の上結いスクエア」がオープンするため、交流人口の増加が期待される。

「都市福祉施設利用者数」は、目標値を約34%下回っている。これは、県が示す感染警戒レベルにより、各施設が休館及び利用制限を行っていたためである。そのため、今後改善が期待できるものであるが、コロナ収束後も利用制限を解除せず運営することを決めている民間施設もあることから、各施設の事業展開や運営方針等の確認と併せて、目標達成に向けた取り組みを検討する必要がある。

「新規出店数」は、目標値を1店舗上回っている。これは、コロナの影響を見極めるうえで今後の経営に踏み出す後押しとして各事業の支援策が活用された結果と考えられる。そのため、今後さらなる改善が期待できることから目標達成が見込まれるものと考えられる。

「文化・交流施設利用者数」は、目標値を約12%下回っている。これは、県が示す感染警戒レベルにより、各施設が休館及び利用制限を行っていたためである。そのため、

今後改善が期待できることと併せて、減少幅が少ないことから、各施設のイベント内容の充実を図ることで目標達成が見込まれるものと考えられる。当初空き施設の活用として計画していた「丘のまち情報交流サロン」は利用用途を変更し倉庫として活用しているため、目標達成が困難であると考えられる。そのため、既存施設と新たな施設の有効的な活用と施設同士の連携した事業を展開することで目標達成を目指す。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

計画策定後、初のフォローアップのため該当なし

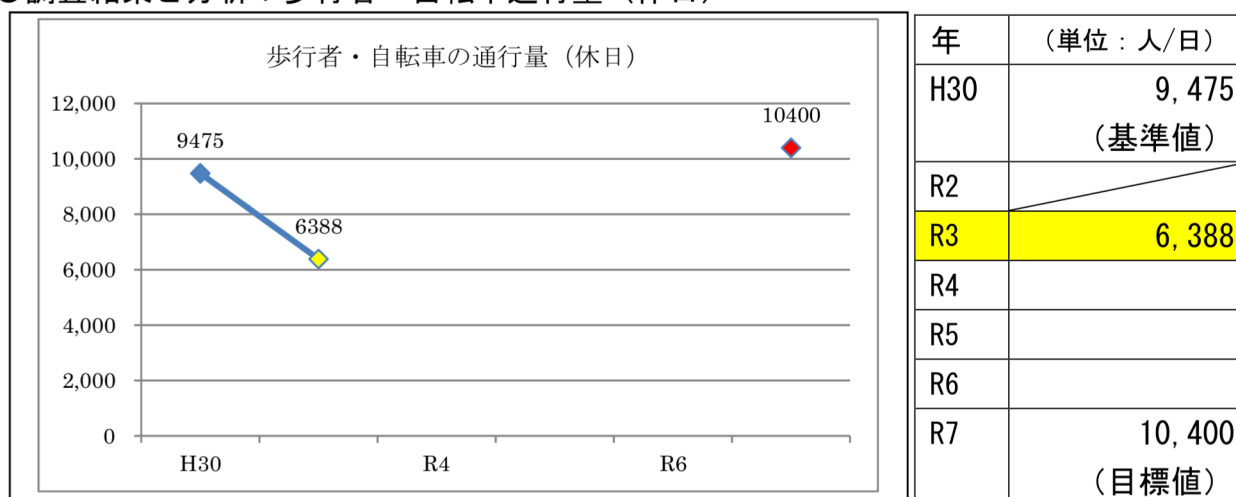
4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

◆美しい丘のまちのデザインづくり

目標指標：歩行者・自転車通行量（休日）

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 109～P. 111 参照

●調査結果と分析：歩行者・自転車通行量（休日）



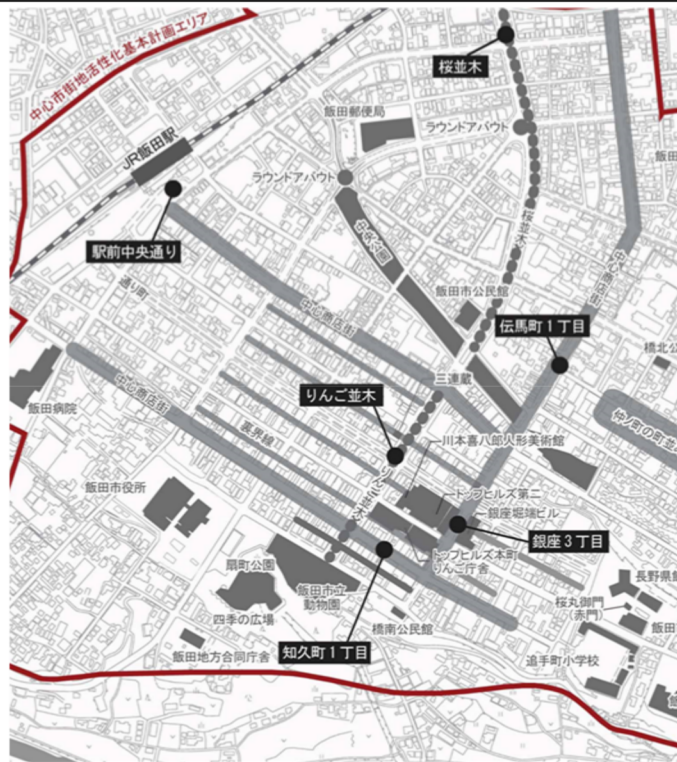
※調査方法：計画地点での調査員による通行量調査

※調査月：10月

※調査主体：飯田市

※調査対象：歩行者及び自転車 土曜日6地点

(駅前・中央通り、りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目、桜並木)



(単位：人/日)

	平成 30 年度 (計画前年度)	令和 2 年度 (1 年目)	令和 3 年度 (2 年目)	令和 4 年度 (3 年目)	令和 5 年度 (4 年目)	令和 6 年度 (5 年目)	令和 7 年度 (6 年目)
駅前・中央通り	3,316		2,212				
りんご並木	1,774		1,246				
知久町 1 丁目	744		390				
銀座 3 丁目	2,734		1,534				
伝馬町 1 丁目	640		564				
桜並木	267		442				
合計	9,475		6,388				

〈分析内容〉

コロナの影響を受ける前の基準値と比較し全体で 33%減少している。理由として、通行量調査実施の約半月前まで県内全域に医療非常事態宣言が発出されていたことや、全国的には主要都市部で緊急事態宣言が発令されていたことから、移動の制限や人との接触機会をできる限り減らす動きの影響を受けたものと考えられる。時間帯別通行量を分析すると、17 時～19 時の時間帯が特に顕著な影響が出ており、基準値対比で 46%減少していることから、夕食や飲み会等の飲食店利用者が大きく減少したものと考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

(1) 市街地の整備事業による効果

①桜並木整備事業

(飯田市、まちづくり委員会)

事業実施期間	平成22年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	市民や来街者がゆっくり歩いて鑑賞でき、四季を通じて楽しめる空間として桜並木を整備することで、滞留と回遊の創出を図る
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（飯田市中心市街地地区）） 令和3年度～令和7年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：391人/日 最新値：歩行者通行量：442人/日（目標達成） 調査地点：桜並木 進捗状況：通行量調査当日に、周辺の保育園で運動会が開催されたこともあり、目標値を上回る交通量があった。
事業の今後について	コロナの影響により、桜並木沿いでの事業を展開できていないため、今後、地域や各種団体の皆さんの主体的な行動により、事業が再開されることで、地域内外からの交流人口の増加が期待される。

(2) 商業施設整備による効果

①旧ピアゴ他駅周辺低・未利用地活用整備事業

(飯田市、飯田市中心市街地活性化協会、(株)飯田まちづくりカンパニー、飯田駅前プラザ(株))

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	リニア中央新幹線の開通を見据え、広域交通拠点と中心拠点及び鉄道・バス等の交通結節点となる、旧ピアゴ等を含む飯田駅周辺の低・未利用地について、教育文化施設や賑わい空間施設等の活用整備を官民連携で行うことにより、新たな魅力拠点の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（飯田市中心市街地地区）） 令和3年度～令和7年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：3,569人/日 最新値：歩行者通行量：2,212人/日（目標未達成） 調査地点：駅前中央通り 進捗状況：目標値を38%下回る結果となった。調査当日は旧ピアゴの改修工事中ということもあり、通行量減少の要因になったと考えられる。
事業の今後について	旧ピアゴ改修後、令和4年5月に「丘の上結いスクエア」としてオープンする。施設内には「公民館機能」「賑わい交流機能」「商業施設」が整備されることから、交流人口の増加が期待される。

②旧ピアゴ商業施設等整備事業

(吉川建設(株)、商店街ほか)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実地中】
事業概要	平成30年9月末に閉店した飯田駅前大型商業施設「旧ピアゴ」を、内外の観光客等のニーズに対応する複合商業施設へと商店街や民間事業者が一体となり整備することで、域外等から新たな需要を取り込み消費の喚起に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	商店街活性化・観光消費創出事業→社会資本整備総合交付金(暮らし・にぎわい再生事業(飯田市中心市街地地区)) 令和2年7月～令和7年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：3,569人/日 最新値：歩行者通行量：2,212人/日(目標未達成) 調査地点：駅前中央通り 進捗状況：目標値を約38%下回る結果となった。調査当日は旧ピアゴの改修工事中ということもあり、通行量減少の要因になったと考えられる。
事業の今後について	旧ピアゴ改修後、令和4年5月に「丘の上結いスクエア」としてオープンする。施設内には「公民館機能」「賑わい交流機能」「商業施設」が整備されることから、交流人口の増加が期待される。

(3) 都市福利施設利用者数増加による効果

①健康福祉拠点活用事業

((社医) 栗山会、カーブス(株)なみき)

事業実施期間	平成26年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	高齢化が進む中心市街地において、市民の健康寿命延伸のため、銀座堀端ビル等を拠点として、地域に居住する高齢者の生活支援施策、地域住民の健康支援事業、地域住民の健康・福祉データバンク機能、子育て支援のため整備した拠点を活用することで、まちなか居住者の健康増進と交流の機会の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,915人/日 最新値：歩行者通行量：3,734人/日(目標未達成) 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：目標値を約37%下回る結果となった。銀座堀端ビルでは健康福祉サービスを提供しており、近隣住民だけでなく市街地外からの利用者もいるが、コロナの影響を受け銀座堀端ビルだけでなく、周辺施設や飲食店等の利用者も減少している。
事業の今後について	橋南公民館が令和4年5月にりんご庁舎へ移転する。また、商業施設として、キラヤ本町店跡になみきマーケットが令和4年5月に開

	店され、店内には公共的な交流エリアの設置も予定されていることから、新たな多世代交流の拠点として、今後のにぎわい創出が期待される。そのため、エリアの集客力を活かし施設利用者増加に向けた事業展開を検討していく。
--	---

②子育て世代包括支援事業

(飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	中心市街地において、子育て世代にとって住みやすい環境づくりが求められており、子育て支援や親子の居場所づくりを行うことにより、来街者の利便性向上や居住人口の増大を図る
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,915人/日 最新値：歩行者通行量：3,734/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：目標値を約37%下回る結果となった。コロナの影響を受け銀座堀端ビルだけでなく、周辺施設や飲食店等の利用者も減少していることが理由と考えられる。事業としては子育て相談として取り組んでいるゆいキッズが利用者増加傾向にある。
事業の今後について	橋南公民館が令和4年5月にりんご庁舎へ移転する。また、商業施設として、キラヤ本町店跡になみきマーケットが令和4年5月に開店され、店内には公共的な交流エリアの設置も予定されていることから、新たな多世代交流の拠点として、今後のにぎわい創出が期待される。

③多世代交流拠点事業

(まちづくり委員会、NPO法人おしゃべりサラダ、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	子育て世代・高齢者等の支援とイベント等の情報交流の場と機会づくりを通じて、誰もが気軽に集える第3の居場所づくりを行い、まちなかの賑わい創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,915人/日 最新値：歩行者通行量：3,734/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：目標値を約37%下回る結果となった。コロナの影響を受け銀座堀端ビルだけでなく、周辺施設や飲食店等の利用者も減少していることが理由と考えられる。なお、NPO法人おしゃべりサ

	ラダは、現在別エリアにて事業を展開している。
事業の今後について	橋南公民館が令和4年5月にりんご庁舎へ移転する。また、商業施設として、キラヤ本町店跡になみきマーケットが令和4年5月に開店され、店内には公共的な交流エリアの設置も予定されていることから、新たな多世代交流の拠点として、今後のにぎわい創出が期待される。

(4) 新規出店数増加による効果

①地区空き家バンク連携事業

(まちづくり委員会、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	中心市街地の3地区が協働で空き家バンクを開設し、空き家・空き店舗情報を収集する体制づくりと情報発信を行うことにより、まちなかの居住環境整備を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：4,604人/日 最新値：歩行者通行量：2,488人/日(目標未達成) 調査地点：知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：目標値を約46%下回る結果となった。調査地点の知久町1丁目、銀座3丁目は夕方以降開店する店舗も多く、時間帯別通行量では17時～19時の時間帯が特に顕著な影響が出ており、基準値対比で約62%減少していることからコロナによる影響が大きいと考えられる。
事業の今後について	各地区の空き家リストを引き続き作成し、利活用可能な空き家を精査することで、今後の取り組みにつなげていきたい。また、橋北地区で作成した空き家予防のパンフレットを地域内に周知することで、空き家の減少にもつなげていきたい。

②空き家・空き店舗活用事業

(まちづくり委員会(株)飯田まちづくりカンパニー、飯田商工会議所、(一社)空き家人情プロジェクト、明治大学、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	地域、市民団体、各種団体が連携して空き家・空き店舗活用の実行組織・仕組みづくりを構築し、既存施設や空き家・空き店舗の調査、マッチング、開業支援を行うことで、歩いて買物・飲食や滞在ができるまちづくりに取り組むことにより、商業の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新	目標値：歩行者通行量：4,604人/日

値及び進捗状況	最新値：歩行者通行量：2,488 人/日（目標未達成） 調査地点：知久町 1 丁目、銀座 3 丁目、伝馬町 1 丁目 進捗状況：目標値を約 46% 下回る結果となった。調査地点の知久町 1 丁目、銀座 3 丁目は夜飲食する店舗が多く、時間帯別通行量では 17 時～19 時の時間帯が特に顕著な影響が出ており、基準値対比で約 62% 減少している。コロナによる影響が大きいと考えられる。
事業の今後について	地域と明治大学と連携し「春草通り活用事業」と併せて春創てらすを開催し、空き店舗を活用したワークショップを実施する等、今後の更なる展開が期待される。

③まちなか起業推進事業

（飯田商工会議所、（一社）South-Heart、飯田市中心市街地活性化協会、飯田市）

事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	まちなかの経済的な衰退傾向に歯止めをかけるため、空き家・空き店舗活用や商業集積再生の担い手となる起業希望者育成及び開業支援を実施することにより、経済活力の向上を図る
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：4,604 人/日 最新値：歩行者通行量：2,488 人/日（目標未達成） 調査地点：知久町 1 丁目、銀座 3 丁目、伝馬町 1 丁目 進捗状況：目標値を約 46% 下回る結果となった。調査地点の知久町 1 丁目、銀座 3 丁目は夜飲食する店舗が多く、時間帯別通行量では 17 時～19 時の時間帯が特に顕著な影響が出ており、基準値対比で約 62% 減少している。コロナによる影響が大きいと考えられる。
事業の今後について	空き家・空き店舗を活用した飯田市の企業者支援制度活用を推進するため、相談窓口となる飯田商工会議所との連携を更に深めていく。

（5）文化・交流施設利用者数増加による効果

①春草通り活用事業

（まちづくり委員会、飯田市）

事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	仲ノ町から旧飯田測候所を「春草通り」と命名し、地域の歴史的資源を活かしたまちづくりの活性化を図る。 旧飯田測候所に付属する測風塔を、環境教育とコミュニティ活動の拠点として地域で活用できる展望台施設等へと改修することで付加価値を与え、ソフト事業との相乗的効果を図ることにより、まち

	なかの賑わいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（飯田市中心市街地地区））
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,956 人/日 最新値：歩行者通行量：3,734 人/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町 1 丁目、銀座 3 丁目、伝馬町 1 丁目 進捗状況：目標値を約 37%下回る結果となった。調査地点の知久町 1 丁目、銀座 3 丁目は夜飲食する店舗が多く、時間帯別通行量では 17 時～19 時の時間帯が特に顕著な影響が出ており、基準値対比で約 62%減少している。コロナによる影響が大きいと考えられる。
事業の今後について	地域と明治大学と連携し「空き家・空き店舗活用事業」と併せて春創てらすを開催し、春草通りや公園、旧飯田測候所等の既存資源を活用した事業を実施している。更に地域との連携を深めた事業展開を行い目標の達成を目指す。

②丘のまち情報交流サロン事業
(飯田市)

事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【未】
事業概要	中心市街地の情報提供やコミュニティ活動の拠点として、本市の施設を活用した市民交流サロンの検討と整備を実施し、官民連携の事業推進と市民活動の支援を行うことにより、さらなる丘のまちの魅力向上を図る
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,956 人/日 最新値：歩行者通行量：3,734 人/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町 1 丁目、銀座 3 丁目、伝馬町 1 丁目 進捗状況：目標値を約 37%下回る結果となった。調査地点の知久町 1 丁目、銀座 3 丁目は夜飲食する店舗が多く、時間帯別通行量では 17 時～19 時の時間帯が特に顕著な影響が出ており、基準値対比で約 62%減少している。コロナによる影響が大きいと考えられる。
事業の今後について	「丘のまち情報交流サロン事業」としては、当初空き施設の活用を計画していたが、利用用途を変更し倉庫として活用している。しかし、同エリアには観光案内所もあり、かつ、令和 4 年 5 月には橋南公民館の移転、商業施設のなみきマーケットの開店も予定しており、店内には公共的な交流エリアの設置も予定されている。これら

	施設の有効的な活用と施設同士の連携した事業を展開することで目標達成を目指す。
--	--

③ライフスタイルの低炭素化事業

(まちづくり委員会、おひさま進歩エネルギー(株)、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	中心市街地にあるエコハウス、旧飯田測候所を拠点に、エコライフに関するイベントや環境教育等の省エネルギーを目指したライフスタイルの普及・啓発活動を実施することにより、快適なまちなか居住の推進を図る
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,956人/日 最新値：歩行者通行量：3,734人/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：目標値を約37%下回る結果となった。調査地点の知久町1丁目、銀座3丁目は夜飲食する店舗が多く、時間帯別通行量では17時～19時の時間帯が特に顕著な影響が出ており、基準値対比で約62%減少している。事業としては対象施設であるエコハウスの利用者が、基準値対比で約46%減であった。理由としてはコロナにより人流が大幅に減少していることが大きな要因として考えられることから、今後の改善に期待したい。
事業の今後について	エコハウス単独事業での集客は難しいことから、沿線で取り組んでいる事業と連携して取り組むことで、事業の推進及び施設利用者の増加を図る。

④丘のまち回遊促進事業

(まちづくり委員会、NPO いいだ応援ネットイデア、飯田まちなか回遊促進研究会環境文化教育機構(株)、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	来街者の核施設となる飯田市立動物園を軸に、りんご並木、桜並木、春草通りに点在する個店や飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館等の施設が連携し、まちなか回遊を生み出すスタンプラリー事業の展開により、中心市街と全体の商業活性へ効果が波及を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,956人/日 最新値：歩行者通行量：3,734人/日（目標未達成）

	<p>調査地点：りんご並木、知久町 1 丁目、銀座 3 丁目、伝馬町 1 丁目</p> <p>進捗状況：目標値を約 37%下回る結果となった。調査地点の知久町 1 丁目、銀座 3 丁目は夜飲食する店舗が多く、時間帯別通行量では 17 時～19 時の時間帯が特に顕著な影響が出ており、基準値対比で約 62%減少している。事業として取り組んでいる「丘の上さんぽラリー」は、コロナの影響もあり期間をこれまで以上に長くとり実施した。春休みやゴールデンウィークの期間に取り組んだこともあり、例年同様の参加者を得ることができた。</p>
事業の今後について	<p>加盟店をスタンプラリーにより回遊してもらう丘の上さんぽラリーは屋外及び期間イベントということもあり、コロナの影響を大きく受けることなく開催できる。そのため、加盟店の追加や事業内容を見直すなど、更に楽しんでもらえる要素を充実させることで事業参加者の増加を目指したい。</p>

⑤丘のまちミュージアム活用事業

(まちづくり委員会、飯田市)

事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	<p>飯田市美術博物館、まちづくり委員会、地域商店街等が連携し、飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、歴史文化遺産、文化芸能、町並み、景観のすべてを地域ミュージアムと捉え、それぞれが関連するテーマを題材とする特別展示等を企画し、知的交流拠点となるまちなかを創出し、来訪者の回遊推進を図る。</p>
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：歩行者通行量：5,956 人/日</p> <p>最新値：歩行者通行量：3,734 人/日（目標未達成）</p> <p>調査地点：りんご並木、知久町 1 丁目、銀座 3 丁目、伝馬町 1 丁目</p> <p>進捗状況：目標値を約 37%下回る結果となった。調査地点の知久町 1 丁目、銀座 3 丁目は夜飲食する店舗が多く、時間帯別通行量では 17 時～19 時の時間帯が特に顕著な影響が出ており、基準値対比で約 62%減少している。コロナによる影響が大きいと考えられることから、今後の改善に期待したい。「丘のまちミュージアム活用事業」としては、入場者が多く期待される施設の基準値対比は飯田市立動物園が約 4%減、美術博物館が約 14%減、中央図書館は若干の増加であった。</p>
事業の今後について	<p>施設を結ぶ交通手段である電気小型バスの有効活用や、魅力ある講座の充実を図りながら、施設の利用者増加へ向けて引き続き展開し</p>

ていく。

⑥ソサエティ 5.0 社会を見据えたデジタル技術活用まちづくり事業
(丘メン実行委員会、KDDI(株)、飯田市)

事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	KDDI(株)の持つ次世代デジタル技術(5G)と中心市街地の歴史的・文化的資源を活用し、新たなまちの賑わいづくり事業を毎年 1 地区で開催することで、関係人口づくりと来街者の回遊促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,956 人/日 最新値：歩行者通行量：3,734 人/日(目標未達成) 調査地点：りんご並木、知久町 1 丁目、銀座 3 丁目、伝馬町 1 丁目 進捗状況：目標値を約 37%下回る結果となった。調査地点の知久町 1 丁目、銀座 3 丁目は夜飲食する店舗が多く、時間帯別通行量では 17 時～19 時の時間帯が特に顕著な影響が出ており、基準値対比で約 62%減少している。コロナによる影響が大きいと考えられる。
事業の今後について	「ソサエティ 5.0 社会を見据えたデジタル技術活用まちづくり事業」としては、丘のまち XR ツアーを開催した。中心市街地の複数個所にスポットを設置し、現地へ行くことで AR によるスポット箇所の紹介や VR で別スポットを見ることができる無料アプリを提供した。今後はスポット数増加や活用方法を検討し、更に回遊性が高められる仕組みとしていきたい。

●目標達成の見通し及び今後の対策

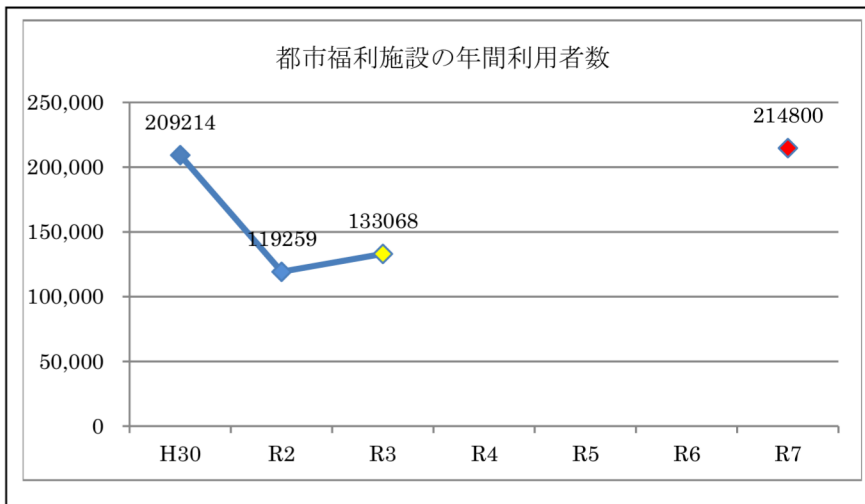
「歩行者・自転車通行量」は、主要 11 事業のうち、目標達成している事業は 1 事業にとどまっている。また、調査した 6ヶ所の内、5ヶ所が基準値を下回っている。いずれもコロナの影響を大きく受けているため、目標達成に向けて、単日開催の集客イベントだけでなく、期間的なイベントや、集客力のある施設と連携した事業を展開し、日常的な賑わいづくりへ取り組んでいきたい。

◆丘のまちの居場所・交流空間づくり

目標指標：都市福利施設利用者数（年間）

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 109～P. 111 参照

●調査結果と分析：都市福利施設利用者数（年間）



年	利用者数
H30	209,214 人/年 (基準値)
R2	119,259 人/年
R3	141,008 人/年
R4	
R5	
R6	
R7	214,800 人/年 (目標値)

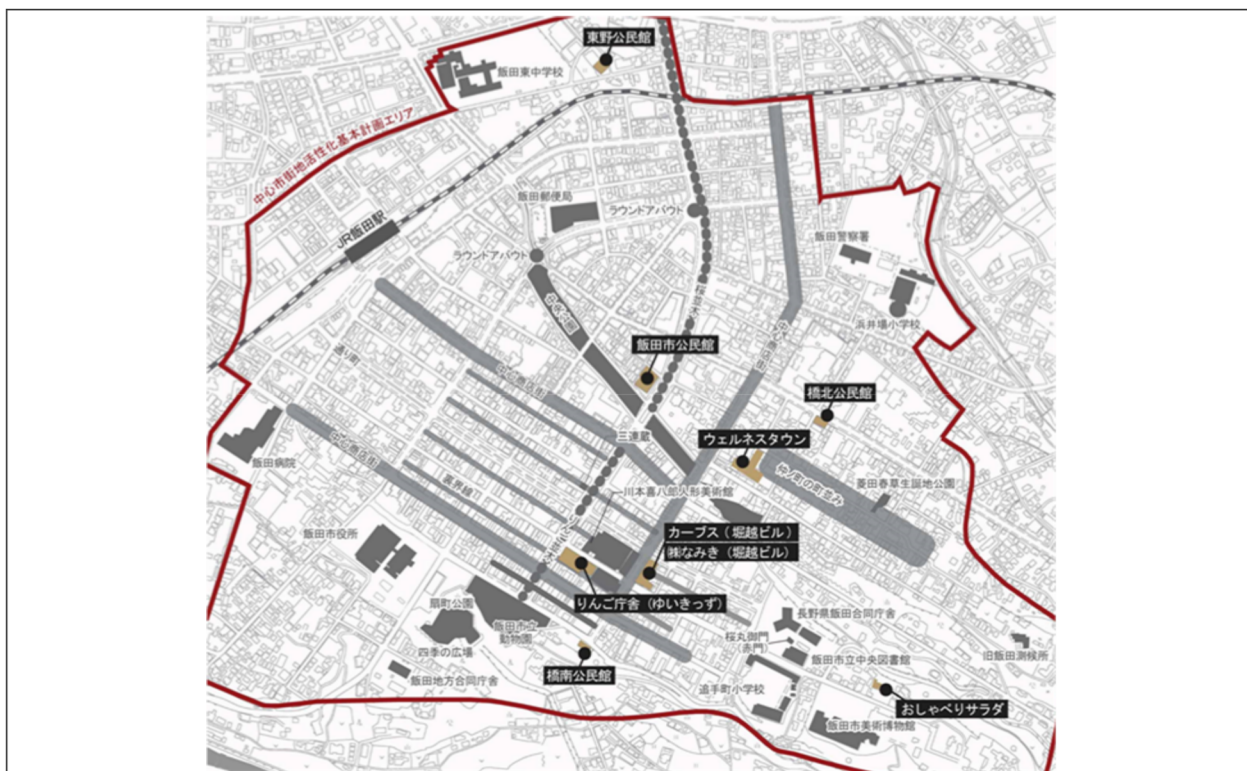
※調査方法：各施設担当者より聞き取り

※調査月：令和4年4月（令和3年度末集計）

※調査主体：飯田市

※調査対象：カーブス、(株)なみき、ウェルネスタウン、ゆいきっず、飯田市公民館、橋北公民館、橋南公民館、東野公民館、おしゃべりサラダ

※「おしゃべりサラダ」は、平成30年度の時点で、地域住民と交流を行う事業を実施していないため、基準値は設けていない。



(単位：人/年)

	平成30年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)	令和7年度 (6年目)
カーブス	55,261	41,014	47,828				
(株)なみき	4,843	3,272	2,255				
ウェルネスタウン	1,900	2,450	880				
ゆいきっず	9,862	13,532	11,606				
飯田市公民館	73,687	29,654	46,598				
橋北公民館	21,094	9,842	11,164				
橋南公民館	8,825	4,703	6,307				
東野公民館	26,599	14,792	14,410				

〈分析内容〉

コロナの影響を受ける前の基準値と比較し全体で約46%減少している。理由としては、コロナの影響により、各施設で休館や利用制限を行っていた期間があるため利用者が減少している。そのため、今後改善が期待できるものであるが、コロナ収束後も利用制限を解除しない方針の民間施設もある。施設利用者数が指標となっていることから、各施設の事業展開や運営方針等の確認と併せて、目標達成に向けた取り組みを検討する必要がある。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

(1) 健康福祉支援による効果

①健康福祉拠点活用事業

((社医) 栗山会、カーブス、(株)なみき)

事業実施期間	平成26年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	高齢化が進む中心市街地において、市民の健康寿命延伸のため、銀座堀端ビル等を拠点として、地域に居住する高齢者の生活支援施策、地域住民の健康支援事業、地域住民の健康・福祉データバンク機能、子育て支援のため整備した拠点を活用することで、まちなか居住者の健康増進と交流の機会の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：65,324人/年 最新値：施設利用者数：50,923人/年(目標未達成) 調査地点：カーブス、(株)なみき、ウェルネスタウン 進捗状況：目標値を約22%下回る結果となった。特に(株)なみきとウェルネスタウンは基準値対比で50%以上減少している。理由は、コロナの影響による施設の利用制限のため、今後改善が期待できる。

事業の今後について	ウェルネスタウン内にあるフィットネスクラブ丘の上はコロナ収束後も利用制限を解除せず運営することを決めており、今後の増加は見込めない。各施設の事業展開や運営方針等の確認と併せて、目標達成に向けた今後の取り組みを検討していく。
-----------	---

(2) 子育て支援による効果

①子育て世代包括支援事業

(飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	中心市街地において、子育て世代にとって住みやすい環境づくりが求められており、子育て支援や親子の居場所づくりを行うことにより、来街者の利便性向上や居住人口の増大を図る
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：10,942人/年 最新値：施設利用者数：11,606人/年（目標達成） 調査地点：りんご庁舎 進捗状況：目標値を約6%上回る結果となった。コロナの影響を受け施設としては休館期間を設けていたが、利用者数が増加していることから、子育て相談等の需要が高まっているものと認識している。
事業の今後について	子育て相談等の需要が高まっていることから、今後更に事業を充実させていく。また、橋南公民館が令和4年5月にりんご庁舎へ移転する。また、商業施設として、キラヤ本町店跡になみきマーケットが令和4年5月に開店され、店内には公共的な交流エリアの設置も予定されていることから、新たな多世代交流の拠点として、今後のにぎわい創出が期待される。

(3) 多世代交流による効果

①多世代交流拠点事業

(まちづくり委員会、NPO法人おしゃべりサラダ、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【未】
事業概要	子育て世代・高齢者等の支援とイベント等の情報交流の場と機会づくりを通じて、誰もが気軽に集える第3の居場所づくりを行い、まちなかの賑わい創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：131,405人/年 最新値：施設利用者数：78,479人/年（目標未達成） 調査地点：飯田市公民館、橋北公民館、橋南公民館、東野公民館、

	<p style="text-align: center;">NPO 法人おしゃべりサラダ</p> <p>進捗状況：目標値を約 40%下回る結果となった。理由は、コロナの影響により公民館を休館及び利用制限したためである。そのため今後改善が見込まれる。なお、NPO 法人おしゃべりサラダは、現在別エリアにて事業を展開しているため、最新値は公民館利用者のみとなっている。</p>
<p>事業の今後について</p>	<p>橋南公民館が令和 4 年 5 月にりんご庁舎へ移転する。また、商業施設として、キラヤ本町店跡になみきマーケットが令和 4 年 5 月に開店され、店内には公共的な交流エリアの設置も予定されていることから、新たな多世代交流の拠点として、今後のにぎわい創出が期待される。</p>

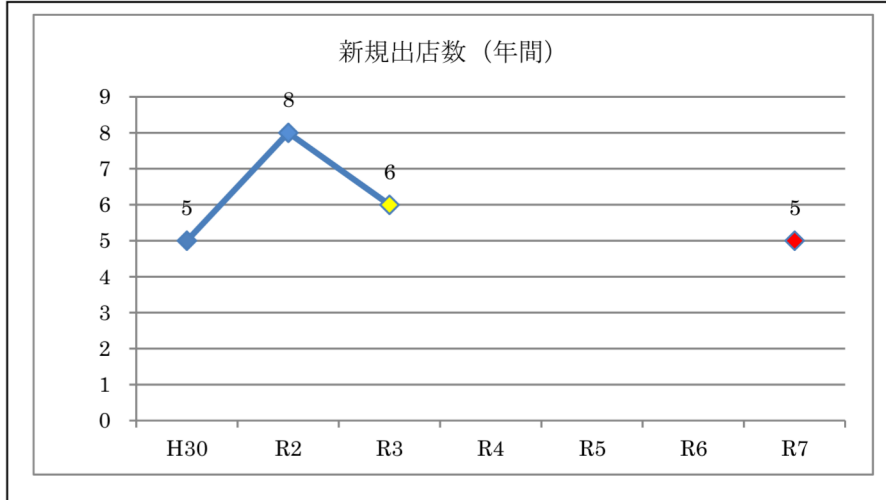
●目標達成の見通し及び今後の対策 「都市福利施設利用者数」は、主要 2 事業が目標未達成となっている。また、調査した 9 施設の内、8 施設が基準値を下回っている。いずれもコロナの影響により各施設が休館及び利用制限を行っていたためである。そのため、目標達成に向けて、ウィズコロナに対する民間施設の活力に期待するとともに、各公民館の事業がコロナ前同様に展開されるよう、地域内で検討していきたい。

◆丘のまちの快適な暮らし創造

目標指標：新規出店数（年間）

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 109～P. 111 参照

●調査結果と分析：新規出店数（年間） ※基準値は平成 20 年～平成 30 年の平均



年	
H30	5 店舗/年（基準値）
R2	8 店舗/年
R3	6 店舗/年
R4	
R5	
R6	
R7	計画期間中の平均 5 店舗/年 (目標値)

※調査方法：各事業担当者より聞き取り

※調査月：令和 4 年 4 月（令和 3 年度末集計）

※調査主体：飯田市

※調査対象：地区空き家バンク連携事業（飯田市空家環境整備補助金、飯田市空家改修補助金、飯田市子育て世帯引越費用補助金）、まちなか起業推進事業（飯田市空き店舗活用推進事業補助金）、まちづくりカンパニー

※上記のうち中心市街地活性化基本計画のエリアのみ対象

（単位：店舗/年）

	平成 30 年度 (計画前年度)	令和 2 年度 (1 年目)	令和 3 年度 (2 年目)	令和 4 年度 (3 年目)	令和 5 年度 (4 年目)	令和 6 年度 (5 年目)	令和 7 年度 (6 年目)
新規出店数	1	8	6				

〈分析内容〉

今年度の「新規出店数」は 6 件（店舗 4 件、民家 2 件）であった。新規出店数を把握することは難しいため、調査対象を市支援策の各種補助金実績及びまちづくりカンパニーからの情報を合算し算出している。目標値を 1 店舗上回っているため、コロナの影響を見極めるうえで今後の経営に踏み出す状況となってきているのではないかと考えられる。また、後押しとして各事業の支援策が活用されたものであるため、今後さらなる改善が期待できるものと考えている。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

(1) 新規出店数増加による効果

①地区空き家バンク連携事業

(まちづくり委員会、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	中心市街地の3地区が協働で空き家バンクを開設し、空き家・空き店舗情報を収集する体制づくりと情報発信を行うことにより、まちなかの居住環境整備を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：新規出店数：3店舗/年 最新値：新規出店数：3店舗/年（目標達成） 調査地点：中心市街地活性化基本計画エリア 進捗状況：目標値と同数の成果を上げることができた。これは、コロナの影響を見極めるうえで今後の経営に踏み出す後押しとして各事業の支援策が活用された結果と考えられる。
事業の今後について	「地区空き家バンク連携事業」としては、全市対象の空き家バンク制度が開設されているため有効的に活用し、中心市街地限定のバンク制度や情報収集・発信についてを、まちづくり委員会とともに検討していく。

②空き家・空き店舗活用事業

(まちづくり委員会、(株)飯田まちづくりカンパニー、飯田商工会議所、(一社)空き家人情プロジェクト、明治大学、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	地域、市民団体、各種団体が連携して空き家・空き店舗活用の実行組織・仕組みづくりを構築し、既存施設や空き家・空き店舗の調査、マッチング、開業支援を行うことで、歩いて買物・飲食や滞在ができるまちづくりに取り組むことにより、商業の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：新規出店数：3店舗/年 最新値：新規出店数：3店舗/年（目標達成） 調査地点：中心市街地活性化基本計画エリア 進捗状況：目標値と同数の成果を上げることができた。これは、コロナの影響を見極めるうえで今後の経営に踏み出す後押しとして各事業の支援策が活用された結果と考えられる。事業としては、明治大学や地域住民と連携し、春草通り等の既存資源を活用した「春草てらす」を実施し、空き家を活用したワークショップを実施している。

事業の今後について	今後、地域と明治大学が連携し空き家・空き店舗の現地調査を実施し、利活用可能な物件を確認する。その後、明治大学から空き家・空き店舗の新しい利活用の提案を受け今後の取り組みにつなげていく。
-----------	--

(2) 来街者の回遊性増加による効果

① まちなか起業推進事業

(飯田商工会議所、(一社) South-Heart、飯田市中心市街地活性化協会、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	まちなかの経済的な衰退傾向に歯止めをかけるため、空き家・空き店舗活用や商業集積再生の担い手となる起業希望者育成及び開業支援を実施することにより、経済活力の向上を図る
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：新規出店数：2店舗/年 最新値：新規出店数：3店舗/年（目標達成） 調査地点：中心市街地活性化基本計画エリア 進捗状況：目標値を1店舗上回っている。これは、コロナの影響を見極めるうえで今後の経営に踏み出す後押しとして各事業の支援策が活用された結果と考えられる。
事業の今後について	空き家・空き店舗を活用した飯田市の企業者支援制度活用を推進するため、相談窓口となる飯田商工会議所との連携を更に深めていく。

● 目標達成の見通し及び今後の対策

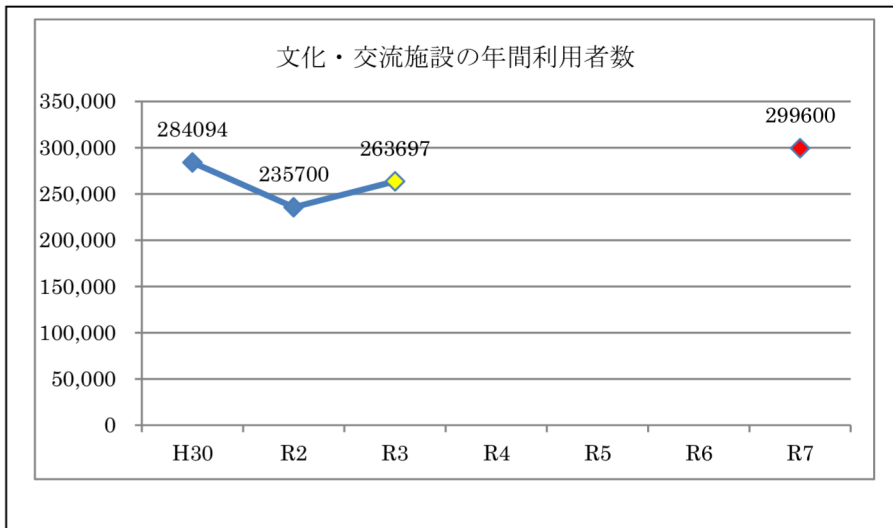
「新規出店数」は、目標値を1店舗上回っている。これは、コロナの影響を見極めるうえで今後の経営に踏み出す後押しとして各事業の支援策が活用された結果と考えられる。目標達成に向けて、現状に即した空き店舗等への支援策を検討していきたい。

◆丘のまちの新たな価値創造

目標指標：文化・交流施設利用者数（年間）

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 109～P. 111 参照

●調査結果と分析：都市福利施設利用者数（年間）



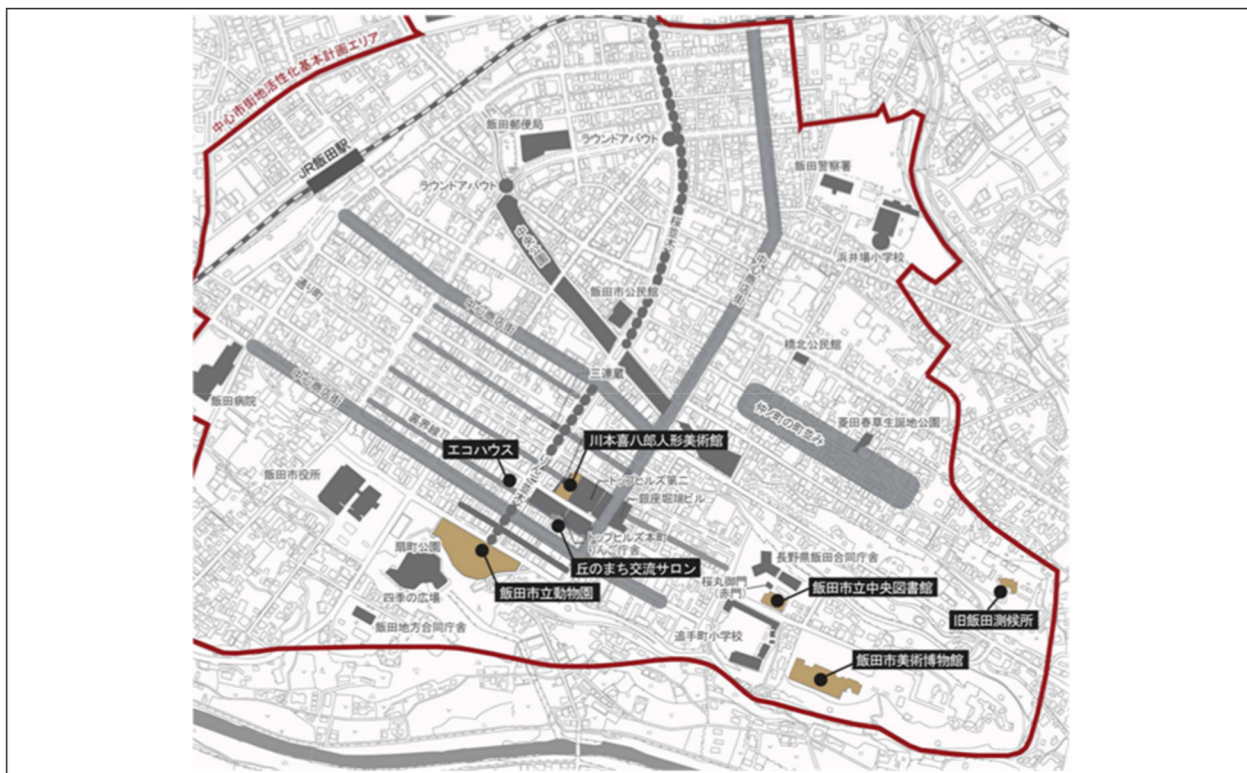
年	利用者数
H30	284,094 人/年 (基準値)
R2	235,700 人/年
R3	263,697 人/年
R4	
R5	
R6	
R7	299,600 人/年 (目標値)

※調査方法：各施設担当者より聞き取り

※調査月：令和4年4月（令和3年度末集計）

※調査主体：飯田市

※調査対象：旧飯田測候所、丘のまち交流サロン、エコハウス、飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園



(単位：人/年)

	平成 30 年度 (計画前年度)	令和 3 年度 (1 年目)	令和 4 年度 (2 年目)	令和 5 年度 (3 年目)	令和 6 年度 (4 年目)	令和 7 年度 (5 年目)
旧飯田測候所	1,312	1,254	1,957			
丘のまち情報 交流サロン						
エコハウス	5,234	1,707	2,313			
飯田市美術博 物館	42,832	27,675	36,790			
川本喜八郎人 形美術館	12,256	4,482	4,514			
飯田市立中央 図書館	96,158	91,888	96,722			
飯田市立動物 園	126,302	108,694	121,401			

〈分析内容〉

コロナの影響を受ける前の基準値と比較し、全体で約 4 % の減少にとどまった。目標値対比では約 12 % 下回っているものの、コロナの影響により、各施設が休館及び利用制限を行っていたことを考えると、日単位の利用者数は増加していると考えられる。そのため、各施設のイベント内容の充実を図ることで今後さらなる改善が期待できると考えられる。当初空き施設の活用を計画していた「丘のまち情報交流サロン」は利用用途を変更し倉庫として活用しているため、目標達成が困難であると考えられる。そのため、既存施設の事業を充実させるだけでなく施設同士の連携を強化する等、にぎわい創出に向けた更なる取り組みが必要となる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

(1) 東西軸強化による回遊性増加に伴う効果

①春草通り活用事業

(まちづくり委員会、飯田市)

事業実施期間	平成 26 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	仲ノ町から旧飯田測候所を「春草通り」と命名し、地域の歴史的資源を活かしたまちづくりの活性化を図る。 旧飯田測候所に付属する測風塔を、環境教育とコミュニティ活動の拠点として地域で活用できる展望台施設等へと改修することで付加価値を与え、ソフト事業との相乗的効果を図ることにより、まちなかの賑わいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（飯田市中心市街地地区）） 令和 3 年度

事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：施設利用者数：3,300 人/年 最新値：施設利用者数：1,957 人/年（目標未達成） 調査地点：旧飯田測候所 進捗状況：目標値を約 47%下回る結果となった。地域住民や明治大学と連携し「春創てらす」を開催している。地域の歴史的資源である春草通りや、旧飯田測候所を一つのフィールドとして捉え、一体的な事業を行うことで今後の活用方法を探りながら事業に取り組んでいる。</p>
事業の今後について	<p>地域と明治大学と連携し「空き家・空き店舗活用事業」と併せて春創てらすを開催し、春草通りや公園、旧飯田測候所等の既存資源を活用した事業を実施している。更に地域との連携を深めた事業展開を行い目標の達成を目指す。</p>

(2) 第3の居場所創出による効果

①丘のまち情報交流サロン事業
(飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【未】
事業概要	<p>中心市街地の情報提供やコミュニティ活動の拠点として、本市の施設を活用した市民交流サロンの検討と整備を実施し、官民連携の事業推進と市民活動の支援を行うことにより、さらなる丘のまちの魅力向上を図る。</p>
国の支援措置名及び支援期間	<p>中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月</p>
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：施設利用者数：1,230 人/年 最新値：施設利用者数：— 人/年（目標未達成） 調査地点：丘のまち情報交流サロン 進捗状況：当初空き施設の活用を計画していた「丘のまち情報交流サロン」は利用用途を変更し倉庫として活用しているため、目標達成が困難であると考えられる。</p>
事業の今後について	<p>同エリア内は観光案内所だけでなく、令和4年5月には橋南公民館の移転、商業施設のなみきマーケットの開店も予定しており、店内には公共的な交流エリアの設置も予定されている。これら施設の有効的な活用と施設同士の連携した事業を展開することで目標達成を目指す。</p>

②ライフスタイルの低炭素化事業

(まちづくり委員会、おひさま進歩エネルギー(株)、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	<p>中心市街地にあるエコハウス、旧飯田測候所を拠点に、エコライフに関するイベントや環境教育等の省エネルギーを目指したライフ</p>

	スタイルの普及・啓発活動を実施することにより、快適なまちなか居住の推進を図る
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：5,434 人/年 最新値：施設利用者数：2,313 人/年（目標未達成） 調査地点：エコハウス 進捗状況：目標値を約 37%下回る結果となった。調査地点の知久町 1 丁目、銀座 3 丁目は夜飲食する店舗が多く、時間帯別通行量では 17 時～19 時の時間帯が特に顕著な影響が出ており、基準値対比で約 62%減少している。事業としては対象施設であるエコハウスの利用者が、基準値対比で約 46%減であった。理由としてはコロナにより人流が大幅に減少していることが大きな要因として考えられることから、今後の改善に期待したい。
事業の今後について	エコハウス単独事業での集客は難しいことから、沿線で取り組んでいる事業と連携して取り組むことで、事業の推進及び施設利用者の増加を図る。

(3) 来街者の回遊性増加による効果

①丘のまち回遊促進事業

(まちづくり委員会、NPO いいだ応援ネットイデア、飯田まちなか回遊促進研究会 環境文化教育機構(株)、飯田市)

事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	来街者の核施設となる飯田市立動物園を軸に、りんご並木、桜並木、春草通りに点在する個店や飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館等の施設が連携し、まちなか回遊を生み出すスタンプラリー事業の展開により、中心市街と全体の商業活性へ効果が波及を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：290,243 人/年 最新値：施設利用者数：259,427 人/年（目標未達成） 調査地点：飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園 進捗状況：目標値を約 11%下回る結果となった。理由はコロナの影響により、各施設が休館及び利用制限を行っていたためである。事業として取り組んでいる「丘の上さんぽラリー」は、コロナの影響もあり期間をこれまで以上に長くとり実施した。春休みやゴールデンウィークの期間に取り組んだこともあり、例年同様の参加者を得ることができた。

事業の今後について	加盟店をスタンプラリーにより回遊してもらう丘の上さんぽラリーは屋外及び期間イベントということもあり、コロナの影響を大きく受けることなく開催できる。そのため、今後は、中央図書館や動物園等の集客率の高い施設の利用者が周遊する仕組みのツールとしての活用を検討していく。
-----------	---

②丘のまちミュージアム活用事業
(まちづくり委員会、飯田市)

事業実施期間	平成 26 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	飯田市美術博物館、まちづくり委員会、地域商店街等が連携し、飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、歴史文化遺産、文化芸能、町並み、景観のすべてを地域ミュージアムと捉え、それぞれが関連するテーマを題材とする特別展示等を企画し、知的交流拠点となるまちなかを創出し、来訪者の回遊推進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和 2 年 7 月～令和 8 年 3 月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：290,243 人/年 最新値：施設利用者数：259,427 人/年（目標未達成） 調査地点：飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園 進捗状況：目標値を約 11% 下回る結果となった。理由はコロナの影響により、各施設が休館及び利用制限を行っていたためである。
事業の今後について	無料で利用できる中央図書館や動物園は減少幅が少ないだけでなく、中心市街地の施設の中でも集客率の高い施設であるため、施設内の事業の充実化を図るとともに、そこから周遊する仕組みをつくることで、違い地全体の賑わい創出につなげていく。

③ソサエティ 5.0 社会を見据えたデジタル技術活用まちづくり事業
(丘メン実行委員会、KDDI(株)、飯田市)

事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	KDDI(株)の持つ次世代デジタル技術（5G）と中心市街地の歴史的・文化的資源を活用し、新たなまちの賑わいづくり事業を毎年 1 地区で開催することで、関係人口づくりと来街者の回遊促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和 2 年 7 月～令和 8 年 3 月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：290,243 人/年 最新値：施設利用者数：259,427 人/年（目標未達成） 調査地点：飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園

	進捗状況：目標値を約 11%下回る結果となった。理由はコロナの影響により、各施設が休館及び利用制限を行っていたためである。事業としては、丘のまち XR ツアーを開催した。中心市街地の魅力スポット複数個所にスポットを設置し、現地へ行くことで AR によるスポット箇所の紹介や VR で別スポットを見ることができる無料アプリを提供した。
事業の今後について	今後は、中央図書館や動物園等の集客率の高い施設の利用者が周遊する仕組みのツールとしての活用を検討していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「文化・交流施設利用者数」は、主要 4 事業すべてが目標値を下回っている。また、調査した 7 施設の内、4 施設は基準値を下回っており 1 施設は開所していない。コロナの影響により、各施設が休館及び利用制限を行っていたためであるが、減少幅が少ないことから、目標達成に向けて各施設イベント内容の充実化に取り組むとともに、施設同士の連携した事業を行うことで相乗効果を図りたい。